

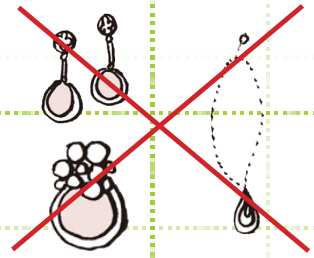
theme

金属アレルギーを考える

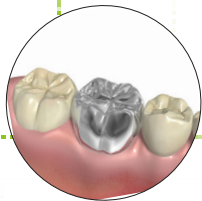
check! 金属アレルギーをご存じですか？

金属製品から汗や唾液などによって溶出した金属イオンが皮膚や粘膜から浸透して体内の自己タンパク質と結合することにより発症すると考えられています。

ジュエリー・アクセサリ等の装飾品、メイク品などにも金属成分は使われておりますので、近年、金属アレルギー罹患者は増加しています。



check! 歯科治療に使用されている金属でもアレルギーは起こります



歯科でもむし歯の治療に金属が使われているのは皆さまご存じのとおりです。これまでアレルギーの発症メカニズムの詳細は明らかになっていませんでしたが、東北大学と札幌医科大学の研究グループがその仕組みを解明し、昨年末に「歯科金属アレルギーにおけるアレルギー抗原の発現機構を解明」として発表しました。



手足の皮がむける



全身の発疹

舌がただれる

今回の発表は主にパラジウムに関するものですが、日本ではパラジウムが保険の歯科金属として広く使用されています。これにより保険診療で使用されている金属は「アレルギー発症のリスクがある」ことを患者様も理解したうえで選択することが求められます。

check! 広がるメタルフリー治療

これまで「失われたエナメル質」に相当する耐久性と硬度、残っている歯と隙間なくぴったり合わせる技術材料は「金属」しかなかったのですが、近年ジルコニアとセラミックにより、白くて薄く作れて精度がよく耐久性がある材料が開発されてきました。

また、保険診療でもこれまでの金属に変わる「高強度のプラスチック製の詰め物」も導入されはじめました。

プラスチックは咬合力（1本の歯あたり体重の3倍以上！）のかかる奥歯には不向きなので金属アレルギーが出にくい「チタン」製の被せものも保険導入されました。いずれにしても「日々の口腔ケア」をしっかりとおこない、ご自身の「無垢の歯」をいつまでも維持したいものですね。

Before



治療前(メタルインレー)

After



治療後(セラミックインレー)

point 金属アレルギーの症状

心当たりのある方は皮膚科でパッチテストを受けましょう。

- ピアス、ベルト、指輪、口の中の被せものなど金属部分が接触する部位に一致して丘疹や紅斑が出ることが多い
- 足の裏や手のひらなど遠隔の部位に出えたり、湿疹やアトピー性皮膚炎に似た症状
- 味覚異常や頭痛、肩こりなどの症状などもある

※現在、金属アレルギーではない患者様が、歯科的症状がない歯の金属材料を「白い材料に交換」することは保険診療では認められません。

※治療に当たって使用するべき材料は一人お一人の状況で異なります。担当者とはよくご相談の上選択してください。